

インタビュー Interview



安田 重晴さん (95歳、堀上)

寒さや飢え、重労働の中、毎日誰かが亡くなっていた厳しいシベリア抑留の様子をお話しました。両殿下は収容所の建物の構造についてご質問されるなど、熱心にお話を聞いていただきました。



たぶのき
樟 康さん (78歳、森町)

引き揚げ時の子ども達の様子をお伝えしたく、日ごろガイド中に使っている紙芝居のうち「おさかなになった女の子」「さっちゃんの満州」のお話させていただきました。紙芝居を作る際に携わっていただいた皆さんへの恩返しことができました。



原田 二郎さん (92歳、綾部市)

戦争の始まりからシベリア抑留までの流れや氷点下の野外で作業をしていた抑留生活のことをお話しました。両殿下も抑留の事をよくご存知で関心を持っておられる様子でした。

両殿下が引揚記念館をご視察された際に、抑留や引き揚げ当時の様子を説明された安田重晴さん、樟康さん、原田二郎さんにその様子を伺いました。

Column 引き揚げと八重桜 コラム



市内平地区の舞鶴湾を望む丘の上に昭和45年に「引揚記念公園」が設置されました。

戦後40年にあたる昭和60年に舞鶴市で初めて引き揚げを偲ぶ周年事業「海外引揚40周年記念 引揚港舞鶴を偲ぶ全国の集い」を開催し、全国から多くの「引き揚げ」や「シベリア抑留」の体験者が集ったことから引揚記念公園への八重桜の植樹が始まりました。その多くは、戦友会や抑留先での有志の集まりの方々の手によるもので、1本1本に標柱が建てられています。

植樹は年々増え、現在100本を超えており、毎年満開の桜を見ることができます。《引揚記念館》



安田さんの話をお聞きになる両殿下 (上)
復元した引揚棧橋をご視察される様子(左)



秋篠宮同妃両殿下

引揚記念館にご来館

4月21日、秋篠宮ご夫妻が、八重桜が満開の舞鶴引揚記念館を訪問され、シベリア抑留や引き揚げに関する資料、復元された引揚棧橋をご視察されたほか、体験者3人と懇談されました。
ご夫妻の訪問は、平成26年に京都府北部5市2町で行わ

れた海フェスタ京都にご臨席の際、引き揚げに関する展示を赤れんがパークでご視察。引き揚げの史実に関心を持たれたことなどから今回の訪問につながったものです。

当日は、多々見市長と山下館長が館内を案内。ユネスコ世界記憶遺産に登録された「抑留者がアルミで作ったスプーン」や「白樺の木の皮を剥いで抑留中の日々の思いをつづった白樺日誌」などをご覧になられたほか、現在も平和学習などで子ども達に自身の体験を語り続けている抑留体験者の安田重晴さん(95歳、堀上)、原田二郎さん(92歳、綾部市)と幼いころに満州から引き揚げた樟康さん(78歳、森町)と懇談。抑留や引き揚げ当時の話を熱心にお聞きになりました。
この後、平成6年に平地区に復元された引揚棧橋をご視察されました。

《引揚記念館》